

平成17年度事業実績報告書

学校法人 皇學館

1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学部・学科等

学校名	学部等名	学科等名
皇學館大学	大学院	文学研究科
		社会福祉学研究科
	専攻科	神道学専攻科
	文学部 (伊勢学舎)	神道学科
		国文学科
		国史学科
		教育学科
		コミュニケーション学科
	社会福祉学部 (名張学舎)	社会福祉学科
		地域福祉文化研究所 (附置研究所)
	附属図書館	文学部図書館
		社会福祉学部図書館
	情報処理センター	
附置研究所	神道研究所	
	史料編纂所	
佐川記念神道博物館		
皇學館高等学校	全日制課程	普通科
皇學館中学校		

(2) 在学生数

(各年度5月1日現在)

	年度	在学生数			収容定員数			収容定員充足率		
		H16	H17	H18	H16	H17	H18	H16	H17	H18
文学部		1,961	1,975	1,990	1,520	1,520	1,570	129.0%	129.9%	126.8%
社会福祉学部		977	983	964	880	880	880	111.0%	111.7%	109.5%
合計		2,938	2,958	2,954	2,400	2,400	2,450	122.4%	123.3%	120.6%
大学院文学研究科博士後期		10	9	10	14	14	14	71.4%	64.3%	71.4%
大学院文学研究科博士前期・修士		38	45	44	34	34	34	111.8%	132.4%	129.4%
大学院社会福祉学研究科修士		11	9	11	20	20	20	55.0%	45.0%	55.0%
合計		59	63	65	68	68	68	86.8%	92.6%	95.6%
高等学校		1,278	1,275	1,256	1,200	1,200	1,200	106.5%	106.3%	104.7%
中学校		219	214	201	240	240	240	91.3%	89.2%	83.8%
神道学専攻科		27	28	33	10	10	10	270.0%	280.0%	330.0%
総合計		4,521	4,538	4,509	3,918	3,918	3,968	115.4%	115.8%	113.6%

	年度	男：女比率 (%)		
		H16	H17	H18
文学部		56.1 : 43.9	56.4 : 43.6	57.2 : 42.8
社会福祉学部		55.3 : 44.7	60.1 : 39.9	61.1 : 38.9
合計		55.9 : 44.1	57.6 : 42.4	58.5 : 41.5
大学院文学研究科博士後期		40.0 : 60.0	44.4 : 55.6	70.0 : 30.0
大学院文学研究科博士前期・修士		55.3 : 44.7	53.3 : 46.7	65.9 : 34.1
大学院社会福祉学研究科修士		63.6 : 36.4	44.4 : 55.6	36.4 : 63.6
合計		54.2 : 45.8	50.8 : 49.2	61.5 : 38.5
高等学校		49.3 : 50.7	49.4 : 50.6	48.8 : 51.2
中学校		48.4 : 51.6	49.1 : 50.9	48.8 : 51.2
神道学専攻科		81.5 : 18.5	89.3 : 10.7	90.9 : 9.1
総合計		53.8 : 46.2	55.0 : 45.0	55.6 : 44.4

(3) 入学生数

(各年度4月現在)

	年度	入学生			入学定員			入学定員充足率		
		H16	H17	H18	H16	H17	H18	H16	H17	H18
文学部		485	475	519	380	380	430	127.6%	125.0%	120.7%
社会福祉学部		244	248	222	218	218	218	111.9%	113.8%	101.8%
合計		729	723	741	598	598	648	121.9%	120.9%	114.4%
大学院文学研究科博士後期		3	3	3	6	6	6	50.0%	50.0%	50.0%
大学院文学研究科博士前期・修士		21	17	20	21	21	21	100.0%	81.0%	95.2%
大学院社会福祉学研究科修士		7	3	8	10	10	10	70.0%	30.0%	80.0%
合計		31	23	31	37	37	37	83.8%	62.2%	83.8%
高等学校		468	403	405	400	400	400	117.0%	100.8%	101.3%
中学校		69	68	67	80	80	80	86.3%	85.0%	83.8%
神道学専攻科		26	27	33	10	10	10	260.0%	270.0%	330.0%
総合計		1,323	1,244	1,277	1,125	1,125	1,175	117.6%	110.6%	108.7%

(4) 卒業(修了)生数

	年度	卒業(修了)生	
		H16	H17
文学部		396	451
社会福祉学部		219	221
合計		615	672
大学院文学研究科博士後期		0	0
大学院文学研究科博士前期・修士		8	20
大学院社会福祉学研究科修士		4	6
合計		12	26
高等学校		393	410
中学校		73	78
神道学専攻科		25	28
総合計		1,118	1,214

(5) 進路状況(大学)

	年度	卒業生数	就職を希望した者	大学院等進学	就職を希望しなかった者	
					自宅学習・家事従事	その他
文学部	H16	396	315	53	26	2
		100.0%	79.5%	13.4%	6.6%	0.5%
文学部	H17	451	353	51	32	15
		100.0%	78.3%	11.3%	7.1%	3.3%
社会福祉学部	H16	219	189	14	12	4
		100.0%	86.3%	6.4%	5.5%	1.8%
社会福祉学部	H17	221	194	10	7	10
		100.0%	87.8%	4.5%	3.2%	4.5%

(参考) 全国大学就職希望率68.3% 文部科学省調査結果(平成18年4月1日現在)より

(6) 就職決定状況

	年度	就職を希望した者	内定者	内定先					就職未決定者
				学校	企業	公務員団体	神社	福祉医療	
文学部	H16	315	289	82	119	35	51	2	26
		100.0%	91.7%	26.0%	37.8%	11.1%	16.2%	0.6%	8.3%
文学部	H17	353	336	76	159	50	46	5	17
		100.0%	95.2%	21.5%	45.0%	14.2%	13.0%	1.4%	4.8%
社会福祉学部	H16	189	183	3	44	12	0	124	6
		100.0%	96.8%	1.6%	23.3%	6.3%	0.0%	65.6%	3.2%
社会福祉学部	H17	194	191	0	83	19	0	89	3
		100.0%	98.5%	0.0%	42.8%	9.8%	0.0%	45.9%	1.5%

(参考) 全国大学就職内定率95.3% 文部科学省調査結果(平成18年4月1日現在)より

(7) 進路決定状況

	年度	卒業生数	大学				短期大学		専門学校	就職	その他
			国立	公立	私立	皇學館	公立	私立			
高等学校	H16	393	18	5	132	102	4	27	72	8	25
		100.0%	4.6%	1.3%	33.6%	26.0%	1.0%	6.9%	18.3%	2.0%	6.4%
	H17	410	11	4	160	111	4	23	55	17	25
		100.0%	2.7%	1.0%	39.0%	27.1%	1.0%	5.6%	13.4%	4.1%	6.1%

(8) 役員概要

(H18. 4月現在)

理事			監事		
定数	実数	任期	定数	実数	任期
13~17	15	2年	2~3	2	2年

評議員		
定数	実数	任期
45~64	54	2年

【役員の内訳】

理事・監事	常・非常勤	氏名	兼職名
理事	常勤	上杉 千郷	理事長
		伴 五十嗣郎	大学長
		宗林 正人	総務・人事・財務担当
		奥野 純一	大学文学部長 教授
		大竹 辰也	大学 法人事務局長
		中村 正昭	高等学校長 中学校長
		櫻井 治男	大学社会福祉学部長 教授
	非常勤	小串 和夫	副理事長 熱田神宮宮司
		村田 仙右衛門	角仙合同(株)代表取締役会長
		濱田 益嗣	(株)赤福取締役会長
		高城 治延	神宮少宮司
		鈴木 寛治	大神神社宮司
		高山 亨	乃木神社宮司
		上山 善紀	近畿日本鉄道(株)相談役
監事	非常勤	亀井 利克	名張市長
		山中 隆雄	伊勢市(株)勢乃國屋相談役
		賀勢 弘	多度大社宮司

(9) 教職員数

(各年度5月1日現在)

年度	本務教員			本務職員			兼務職員			計		
	H16	H17	H18	H16	H17	H18	H16	H17	H18	H16	H17	H18
文学部	59 (3)	58 (3)	61 (4)	61 (2)	61 (4)	59 (4)	23	24	20	143 (5)	143 (7)	140 (8)
社会福祉学部	31 (5)	32 (7)	37 (7)	18 (1)	17 (1)	16 (1)	2	1	1	51 (6)	50 (8)	54 (8)
高等学校	65 (16)	71 (16)	69 (16)	6 (1)	7 (3)	6 (2)	4	1	1	75 (17)	79 (19)	76 (18)
中学校	13 (5)	12 (2)	14 (4)	1	2	2 (0)	1	0	0	15 (5)	14 (2)	16 (4)
合計	168 (29)	173 (28)	181 (31)	86 (4)	87 (8)	83 (7)	30	26	22	284 (33)	286 (36)	286 (38)

※特任教員・客員教員・期限付助手・高等学校・中学期限付常勤講師・嘱託職員を内数として()内に表示

2. 事業の概要

平成 24 年度に皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年の節目を迎えるにあたり、一層の充実と発展を図るために、建学の原点に立ち返り、教育・研究をはじめ施設設備の拡充・整備など、記念事業計画に基づく諸事業を鋭意推進しています。

また、平成 17 年度においては、本学における教育理念及び目標を明確化し、教育研究に関する様々な課題を実現化するため、中期計画策定委員会から答申された中間報告書に基づき、以下の 3 つの目標を設定しました。今後も建学の精神の共有、大学の社会的責任を果たすために全職員の共通認識の向上を基盤とし、学部学科構成、カリキュラム、教員組織、学力向上のための諸施策等、教育研究に関する課題に対し引き続き具体策を検討し計画していきます。

大学の目標

わが国の歴史・伝統を継承・究明・応用して社会の要請に応える学園の創造
神道精神に基づく人間性豊かな立派な日本人の育成

自立心に富み、社会の各領域においてリーダとして貢献できる人材の養成

なお、平成 17 年度における主な事業の目的・計画・進捗状況等は、以下のとおりです。

(1) 皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年記念事業

《大学》

文学部総合体育館

(総事業費 1,029 百万円、総面積 5449.17 m²、RC 造 + S 造地上 2 階) の完成

旧体育館を取壊し、新たに総合体育館(メインアリーナ、サブアリーナ、柔道場、剣道場(薙刀道場)、トレーニングルーム)が完成しました。

記念研究事業

『訓読・注釈 儀式践祚大嘗祭儀』の刊行にあたり、「儀式」巻二の北野斎院条までの訓読・注釈を作成しました。また、『續日本紀史料第七巻』(天平 10 年～同 14 年、5 年分)を刊行しました。

『續日本紀史料第八巻』(天平 15 年～同 18 年、4 年分)は、平成 18 年の刊行を予定しています。

(2) 施設環境整備

《大学》

文学部 隣接地の購入と整地(16 百万円)

学生生活にも役立つよう伊勢学舎テニスコート横(伊勢市神田久志本町赤井 1718 番地 2)の土地を購入しました。

文学部 学徒出陣顕彰碑建立（18 百万円）

戦後 60 年の節目にあたり、伊勢学舎旧六角講堂跡地に戦没学徒慰霊碑（流政之氏作）を建立し、庭園として整備しました。平成 18 年 2 月 11 日、戦没学生のご遺族を招き教職員・学生とともに戦没学徒慰霊祭と除幕式を行いました。

文学部 駐車場の造成と整備（49 百万円）

伊勢キャンパス整備計画に基づき伊勢学舎第 1 グラウンド横の谷地を埋立て、駐車場（収容台数 40 台）として整備しました。

社会福祉学部 神明宮移築工事及びキャンパス緑化事業（34 百万円）

建学の精神をより深く理解させることを目的とし、名張学舎「神明宮」を本部棟屋上から正門東側に移設しました。今後は、周辺を鎮守の森として整備していく予定です。

社会福祉学部 校舎バリアフリー工事（12 百万円）

名張学舎 1 号館・2 号館・3 号館出入口の開き戸を引き戸に改修、本部研究棟と図書館入り口に点字ブロックを設置し、バリアフリー化を行いました。

（私立学校施設整備費補助金防災機能等強化緊急特別推進事業「バリアフリー化工事」）

社会福祉学部 入浴実習室改修工事（2 百万円）

社会福祉学科介護福祉学コースの設置に伴い実習授業時の安全性と効率化を図るため、名張学舎入浴実習室を改修しました。

社会福祉学部 学生駐車場整備（12 百万円）

名張市所有の名張学舎隣接地を借用し、学生駐車場（収容台数 300 台）として整備しました。また、駐車場周辺に外灯及び案内板を新設し安全性を図りました。

《高等学校》

高等学校 第 2 グラウンド整備（21 百万円）

授業・クラブ活動・対外試合等における利用者の便宜を図るため、屋外トイレ・渡り廊下・照明設備を設置しました。

高等学校 2 号校舎耐震補強工事（56 百万円）

昭和 56 年以前の旧耐震基準にて設計された校舎で、新耐震基準に達していないことから、生徒・教職員の安全対策のため、高等学校 2 号校舎の耐震補強工事を行いました。

（私立学校施設整備費補助金防災機能強化施設整備費「耐震補強工事」）

高等学校 校舎・第 2 体育館アスベスト撤去工事（33 百万円）

アスベスト含有量の分析調査の結果、基準を超えた含有量が検出されたためアスベスト封じ込め工事を行いました。

（私立学校施設整備費補助金防災機能強化施設整備費「アスベスト対策」）

《中学校》

中学校 教室改修工事（4 百万円）

少人数教育の実施による教室不足の改善と教育施設の充実を図るため、中学校図書室の一部と会議室を普通教室に改修しました。

（3）情報環境整備の推進

《総合》

情報処理システムの整備（84 百万円）

基幹系システム最後の「就職システム」を始めとして、「インフォメーション」「身分証明書発行」などの周辺部分のシステムを整備しました。この結果、統合データベースシステム「皇學館システム」が完成し、直接的な学生サービスと教職員の業務効率並びに信頼性の向上を図ることができました。

《大学》

情報処理教室の整備（19 百万円）

学生の情報処理能力と教育効果の向上のため、両学舎情報処理教室のソフトウェア充実と、名張学舎点字教室の機器を整備しました。

（私立大学等経常費補助金高度情報化推進特別経費「情報通信設備」）

《高等学校・中学校》

高等学校・中学校ネットワークの整備（2 百万円）

機器類の更改時期に合わせ、主要なネットワーク機器やサーバの更新を行い、大学と同等のネットワークの性能を確保し、サービスの向上を図りました。

（4）国際交流

《大学》

留学生の受入

文学部では、ベルギー、英国・ケンブリッジ大学、中国から 3 名の留学生を、社会福祉学部では、中国から 1 名の留学生を受け入れました。

研究者の受け入れと教員派遣

中国社会科学院日本研究所から所員 2 名、河南大学から教員 2 名を研究者として受け入れました。また、本学から、神道国際友好会海外宗教事情視察参加のため、米国へ 2 名、中国社会科学院へ社会福祉学部教員 4 名、中国河南大学へ教員 1 名、事務職員 3 名を派遣しました。

《高等学校》

オーストラリア姉妹提携高校生徒との交換留学

オーストラリアニドリーセカンダリーカレッジとの姉妹提携調印書（平成 16 年 8 月 4 日）に基づき、平成 17 年 5 月 28 日から 6 月 3 日まで、ニドリー校から

12名の生徒を受け入れ、本校生徒の家庭に滞在しながら、日本の伝統・文化に直接触れる学習や授業参加等を通して、相互間の交流を深めました。

また、平成17年7月25日から8月7日まで、本校生徒10名がニドリー校を訪問。ホームステイをしながら、語学研修及び文化交流に努め、オーストラリア文化の理解と両校の交流充実に成果を上げ、参加生徒の大きな自信に繋げることができました。

(5) 教育研究の活性化

《大学》

研究支援制度の推進

教員への研究支援のため、研究業績データベースシステムを構築しました。また海外での研究の活性化のため、ベルギー・中国・台湾、ニュージーランド・オーストラリア・英国・米国等への海外出張の支援を行いました。

狩野文庫マイクロ版集成の購入(6百万円)

東北大学附属図書館所蔵「狩野文庫」のうち、本学の建学の精神である神道関連の貴重な資料(神祇・神道・宗教・儀礼関係書)を購入しました。

(私立大学等研究設備整備費等補助金)

古文書伊勢国掃守某畠地売券の購入(3百万円)

「古文書学概説」や「神宮史」等の授業に活用するため、平安時代後期の応徳元年(1084)伊勢国度会郡の掃守某が高羽江中大夫に畠1反を絹20疋で売却した際に作成された古文書『伊勢国掃守某畠地売券』を購入しました。今後の史料編纂所「神宮史料及び神宮史年表の編纂事業」においても、さらなる研究の深化が期待されます。(私立大学等研究設備整備費等補助金)

学術講演会・地域フォーラム等の開催

地域と密着した大学作りを目指し、平成17年度においては以下の講演会等を開催し、積極的に地域との交流を深めました。

名称	開催地	開催数	参加者 (年間延べ人数)	主催
月例文化講座「対外関係の日本史」	伊勢市	年8回	約856名	文学部
学術講演会「朱子学と神道」	伊勢市	年1回	約70名	附置研究所(神道研究所)
学術シンポジウム「熊野の自然と文化」	伊勢市	年1回	約45名	附置研究所(神道研究所)
教養講座「日本の祭りー祭りの意義と歴史・芸能ー」	伊勢市	年4回	約280名	附置研究所(神道博物館)
公開講座「史料の世界13 古代の典籍5」	伊勢市	年1回	約48名	附置研究所(史料編纂所)
古文書を読もう(夏セミナー・冬セミナー)	伊勢市	年8回	約288名	附置研究所(史料編纂所)
オープンキャンパス「史料展」	伊勢市	年3回	約52名	附置研究所(史料編纂所)
月例文化講座「知に遊ぶ教養」	名張市	年10回	約1,039名	社会福祉学部
文化フォーラムin伊賀2005	名張市	年6回	約110名	社会福祉学部
まなび塾「名張市民との共同まちづくり学習会」	名張市	年6回	約116名	社会福祉学部
週末あそび塾「名張地域の児童と保護者との学習会」	名張市	年26回	約336名	社会福祉学部

(6) 教育の充実

《大学》

文学部 2 学科の入学定員増の申請と認可

国文学科を 70 名から 80 名に、教育学科を 80 名から 120 名に定員増の申請を行い認可されました。

文学部教養教育の充実を目指したカリキュラムの改革

教養教育並びに基礎専門教育の一層の効果を図るため、文学部教務委員会による平成 20 年度カリキュラム改革の検討が始動しました。

具体的な全学共通科目・初年次導入科目、入学準備教育、リメディアル(補習)教育、キャリア教育等の検討をしていきます。

社会福祉学部総合福祉学、社会情報学、児童福祉学の 3 コース制を導入

平成 17 年度入学生より、教育内容の明確化・魅力化を図るため 3 つのコースを導入しました。

この結果、社会福祉士国家試験受験資格のほか、精神保健福祉士国家試験受験資格、社会調査士資格、保育士資格等の資格取得が可能となり、学生の就職先の多角化が図られ、志願者獲得の方策が強化されました。さらに、平成 18 年度入学生より介護福祉学コースが追加され、介護福祉士の資格取得が可能となります。

社会有為の人材育成とよりよい学生生活を目指した学生支援センターの設置

平成 17 年 4 月、社会福祉学部学生支援センターを設置し、ボランティアコーディネート業務、保健室業務(通常の保健室業務及び健康相談の実施等)、学生相談室業務(相談学生の窓口としてカウンセラーと連絡調整等)の 3 つの業務が実践されました。

F D 活動

平成 17 年度からファカルティ・デベロップメント(FD)推進委員会を設置し、本格的な活動が開始されました。平成 17 年度は、授業効果アンケートの改善とその活用、FD 活動についての講演会開催、初年次・導入教育にかかる先進事例の研究と実施計画の検討、授業公開に向けての内容検討を中心に活動を進めました。なお、活動の総括レポートを平成 18 年 6 月に刊行する予定です。

就職支援

教員採用試験及び社会福祉士国家試験の合格率向上のため、「教員採用試験対策講座・教養講座」、「模擬面接会」、「社会福祉士国家試験対策講座(66 コマ)」などを実施しました。その結果、平成 17 年度の小学校教員採用試験(三重県)での 1 次試験合格の最終合格率は、16 年度 40%、17 年度は 55%と 15%向上しました。

社会福祉士国家試験対策については、18 年度から国家試験対策委員会を立ち上げ、従来の対策講座とリンクさせた大学独自の試験対策を実施することを検討

しています。

また、就職意識の改革のため、平成 17 年度より YES - プログラム（若年者就職基礎能力支援事業）を導入し、インターンシップ等による若年層の就職意識の向上を図りました。また、全学部において早期からの就職意識高揚・能力育成を目的とした、1 年生向けのキャリアサポートを行いました。

(7) 高等学校・中学校

《高・中一貫教育の一層の推進》

教員の資質向上（研修機会の拡大と人材育成）

私学協会主催の管理職研修、初任者研修をはじめ自主的な研修等への積極的な参加を含め、若手教員の育成のために一人当たり 3～4 回の授業参観を実施し授業評価と共に人事評価を行い人材育成に努めました。さらに、中学校においては全教員による研究授業が定着し、保護者の参観も含め授業の改善に大きな成果が得られました。

学校の活性化（グラウンド改修等による部活動支援）

高等学校においては、剣道部（男女）、陸上部（女子）、器械体操（女子）が全国総合体育大会（インターハイ）に出場。剣道部（男子）、陸上部（女子）は国民体育大会に、バレー部（男子）においては全国高校選抜大会に出場を果たし、それぞれのクラブが本県の代表として大きな活躍をしました。他にもバスケット部（男女）、柔道部（男子）、新体操部（女子）、弓道部（男女）は常に県下で上位の成績を残す活躍をしています。

また、第 2 グラウンドの整備も完了し、野球部の今後の活躍が期待されます。文化部においても、美術部、書道部の生徒作品を校内に常設展示するなど創作活動の意欲向上を行い、音楽部には楽器を充実させました。

中学校教育の少人数クラス編成（基礎・基本の定着と学力の向上）

各学年国語、数学、英語の 3 教科において、2 クラスを 3 講座制としました。各教科それぞれ 15 時間の増時間は、高等学校教員の兼務及び非常勤講師で対応をし、基礎・基本の定着と学力の向上に生徒・保護者から高い評価を受けました。

新カリキュラム対応

（カリキュラムの見直し、進学実績の向上、実験実習の充実）

平成 18 年度入学生より進学コース、特進コース及び 6 年制コースのカリキュラムの一本化を図りました。このカリキュラムの簡素化により教育内容の理解が容易になりました。なお、進学実績向上を目指し、3 人の特別講師を採用し 3 年目を迎え、特進・6 年制コースにおいて各学年共にアクセル講座を正規授業時間内に開講し制度上の完成を図りました。更なる条件整備と教科指導上の充実・改善と共に、今後の実績向上を目指します。

教育の条件整備（高等学校教員の増）

2学級増への対応（計33学級）教科情報の充実のために、数学教員2人（内1人情報免許所有）英語教員2人の採用を行いました。また、中学校と高等学校の授業時数のバランス上、中学校教員1人を高等学校に人事異動し、合計5人の高等学校教員の定数増を図りました。

学校自己評価の実施

平成16年度に引き続き、各分掌、各学年及び各教科が、当該年度の目指す目標を定め、具体的な取り組みを明示し、予め定めた評価基準により学年末に自己評価をいたしました。この学校自己評価の参考とするため、生徒、保護者に対する満足度調査も行いました。

これらの結果から、課題・改善点を整理して平成18年度の学校運営に活用した取り組みを行います。なお、中学校においては満足度調査及び学校自己評価結果の概要を、高等学校においては満足度調査結果の概要を、「学校通信」を通じて全保護者にお知らせいたしました。

3. 停年制度の改正

平成21年度から大学教員の停年を70歳から65歳に、管理職員の停年を68歳から65歳に引き下げるための規程改正を行いました。また、組織の活性化を促進するため、選択停年の申し出要件を拡大するとともに、平成21年度までの時限で早期退職優遇制度を実施することとしました。

4. 第2号基本金による施設設備計画

皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年記念事業施設整備計画

計画年度	部門	場所	計画内容
平成19年度 ～ 平成20年度	文学部	伊勢市	文学部教育研究棟建設工事

5 . 財務の概要

平成 17 年度の決算の状況について、その概要を報告いたします。

(1) 本学園の財務状況の概要 (資金収支計算書)

財務状況の概要を支払資金 (現金預金) の収支を基本とし、平成 17 年会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の資金的 content と顛末を明らかに示した「資金収支計算書」において報告いたします。

資金収入合計及び資金支出合計は、96 億 6 千 8 百万円で、平成 18 年度に繰り越す現金・預金 (次年度繰越支払資金) は、26 億 7 千 2 百万円となり前年度並みの繰越支払資金を確保することができました。

次に、主な科目について説明いたします。

資金収入

学生生徒等納付金収入は、38 億 6 千 8 百万円となりました。授業料、入学金、実験実習料、施設設備資金、教育充実費等が主な収入で、納入学生数は大学 (大学院等を含む) 2,970 人、高等学校 1,266 人、中学校 212 人の合計 4,448 人となります。学費は社会経済情勢を勘案し、平成 12 年度から据え置いています。

手数料収入は、8 千 7 百万円となりました。入学検定料 7 千 6 百万円が主な収入で、入学志願者数 (A O エントリー志願者を含む) は、大学 (大学院等を含む) 2,145 人、高等学校 1,151 人、中学校 161 人、合計 3,457 人となります。

寄付金収入は、3 億 6 百万円となりました。創立百三十周年・再興五十周年記念事業寄付金として 2 億 9 千万円、その他が 1 千 6 百万円となります。

補助金収入は、7 億 6 千 5 百万円となりました。国庫補助金として、日本私立学校振興・共済事業団経常費及び特別補助金、文部科学省補助金で 3 億 1 千 2 百万円、地方公共団体補助金が、三重県振興補助金等 4 億 5 千 3 百万円となります。

資産売却収入は、長期有価証券の売却等により 6 億 4 千 2 百万円となりました。

前受金収入は、8 億 2 千 6 百万円となりました。平成 18 年度入学者数は、大学院 31 人、神道学専攻科 33 人、大学学部 741 人、高等学校 405 人、中学校 67 人の合計 1,277 人となります。

その他の収入は、13 億 2 千 6 百万円となり、その内施設設備拡充引当特定資産 (第 2 号基本金) から文学部総合体育館建築資金として 8 億 5 千万円を取り崩しています。

資金支出

人件費支出は、29億6千1百万円となりました。本務教職員、兼務教職員、退職金等が主な支出で、平成17年度末における本務教職員数は大学教員89人、高等学校教員70人、中学校教員12人、職員86人、合計257人で、その他兼務教員168人、兼務職員26人（パート・アルバイトを除く）となっています。

教育研究経費支出は、9億3千1百万円となりました。大学・高等学校・中学校の教育研究諸活動に必要な消耗品費、研究・教育等補助費、光熱水費、奨学費、業務委託費、賃借料、保守管理費等が主な支出となります。

管理経費支出は、3億4千9百万円となりました。学生募集経費、大学・高等学校・中学校全般に係る経費、法人の運営に必要な諸経費となります。

借入金等返済支出は、7千8百万円となりました。建物等の取得に際して日本私立学校振興・共済事業団から借り入れた借入金の返済支出となり、平成17年度末借入残高は、6億9千3百万円となります。

施設関係支出は、土地・建物・構築物等取得で10億6千1百万円となりました。創立百三十周年・再興五十周年記念事業として文学部総合体育館工事、高等学校2号校舎耐震補強工事と校舎・第2体育館アスベスト撤去工事等が主なものとなります。

設備関係支出は、1億6千1百万円となりました。教育研究用機器備品として文学部総合体育館備品や図書等の購入費となります。

資産運用支出は、14億4千4百万円となりました。長期有価証券の購入や将来の蓄積として各引当特定資産への積み立て、第2号基本金として「文学部教育研究棟」の建築資金5億円を繰り入れました。

(2) 本学園の経営状況の概要（消費収支計算書）

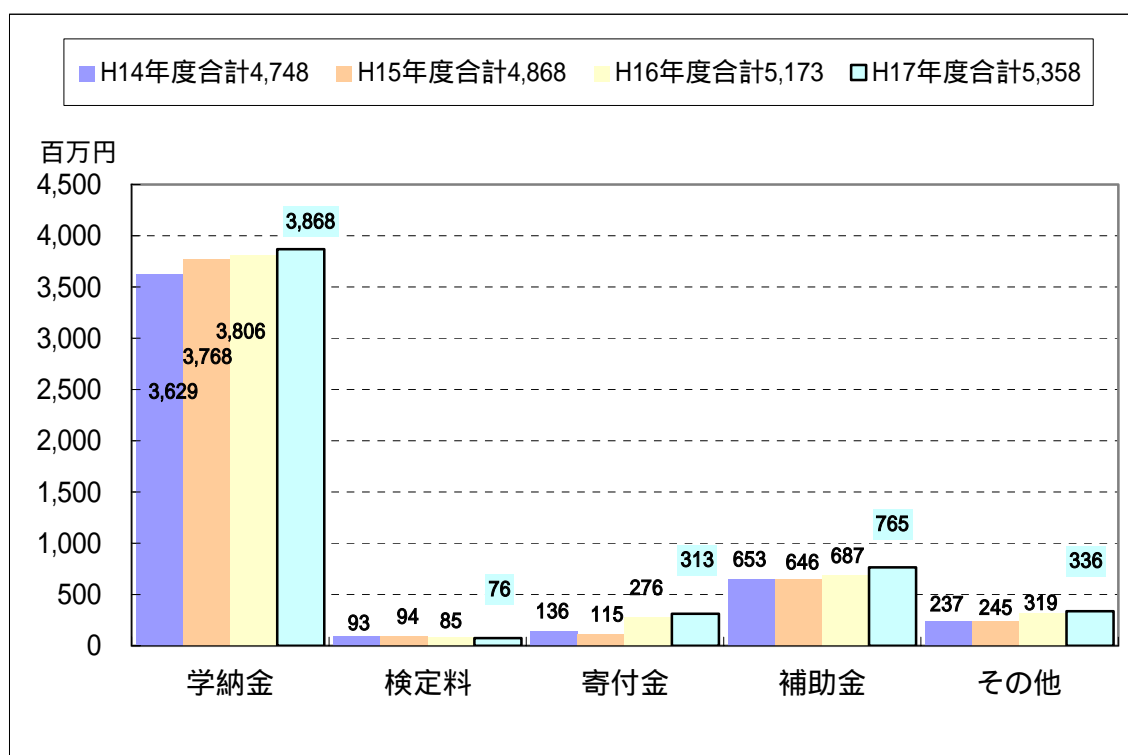
経営状況の概要について、学校法人の経営が健全であるかどうかを示す「消費収支計算書」において経年比較を通して報告いたします。

この「消費収支計算書」は、学園の経営状況を表し、平成 17 年会計年度における消費収支の均衡状況とその内容を明らかにするもので、企業会計における損益計算書にあたるものです。

帰属収入

帰属収入は、学校法人に帰属する負債とならない収入で、総額 53 億 5 千 8 百万円となりました。基本金組入額は、8 億 7 千 1 百万円となり、第 2 号基本金への組入 5 億円及び当年度取得資産額が含まれています。平成 16 年度と比べ、寄付金と補助金が増額、学生生徒等納付金（学納金）は前年度並みとなったため、前年度を 1 億 8 千 5 百万円上回りました。なお、帰属収入から基本金組入額を控除した消費収入は、44 億 8 千 6 百万円となります。

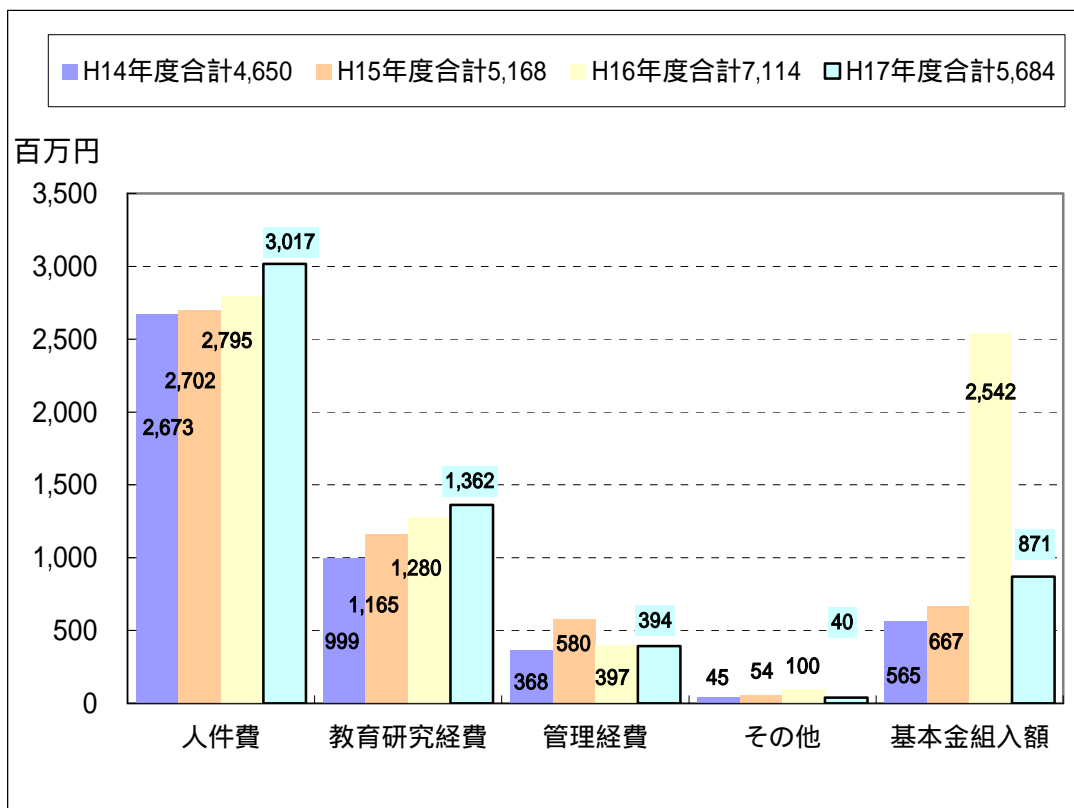
《帰属収入》



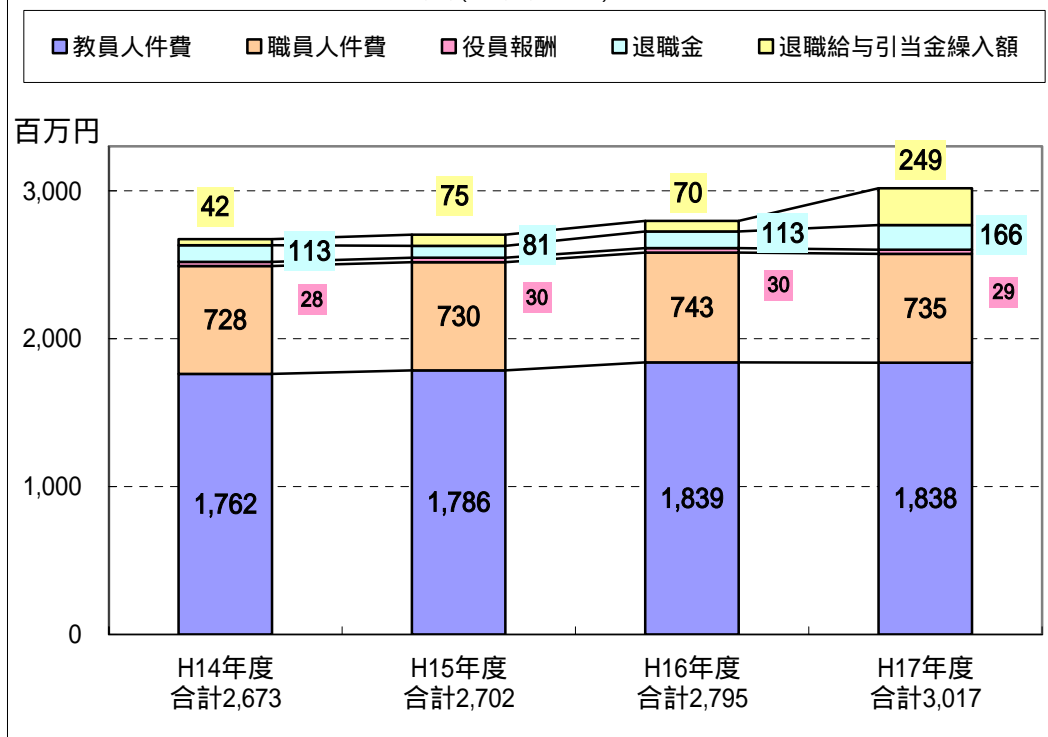
消費支出

消費支出は、教職員の人件費、教育研究活動及び法人の運営に必要な諸経費等で、総額 48 億 1 千 3 百万円となりました。平成 16 年度と比べ、退職者の増加による人件費退職金及び退職給与引当金繰入額の増額、高等学校アスベスト工事等による教育研究経費施設修繕費の増額のため、前年度を 2 億 4 千万円上回りました。

《消費支出+基本金組入額》



人件費(消費支出)の推移



帰属収支差額

この差額は、帰属収入から消費支出を差し引いて計算します。これは、学校法人全体の収支状況の健全性を把握する重要な評価項目で、プラスが多ければ自己資金の充実を表し、経営が健全であると見なす事ができる指標となります。

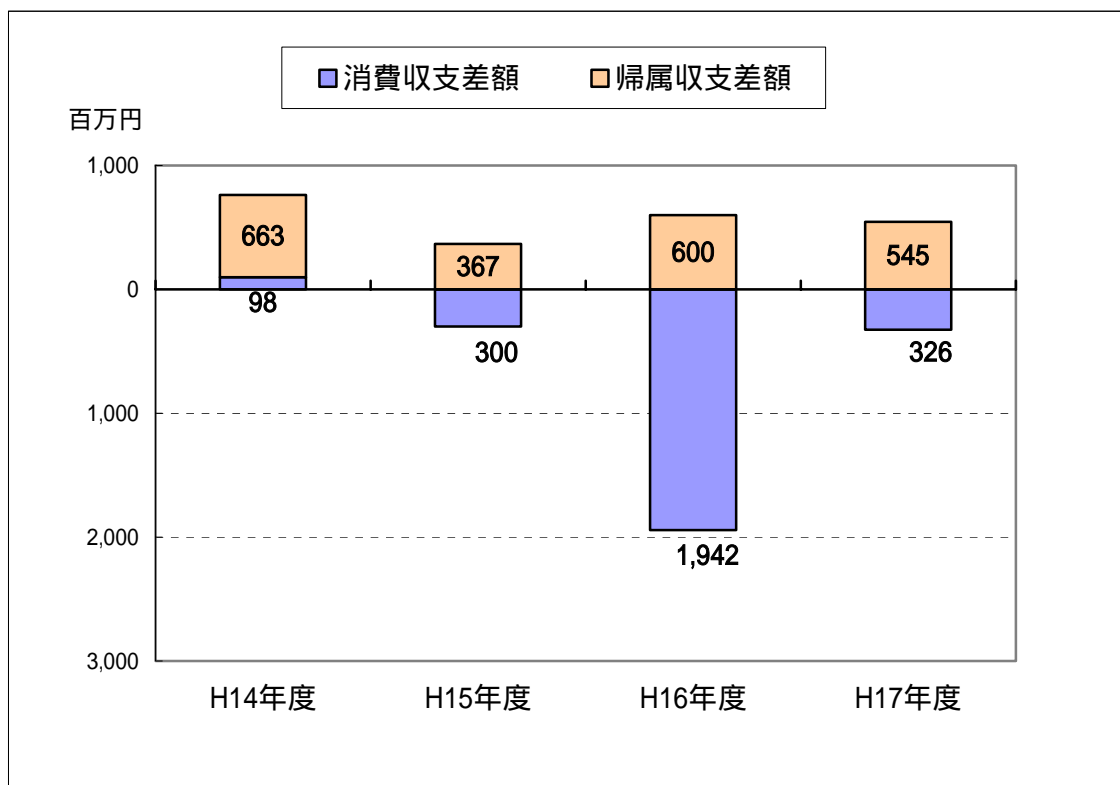
平成 17 年度の帰属収支差額は 5 億 4 千 5 百万円となりました。平成 16 年度とほぼ同額を確保でき、この収入超過は、将来の施設等の取得資金に積み立てています。

このように学校経営は、18 歳人口の減少など引き続き厳しい状況下にあります。本学においては、比較的安定したものとなっています。

消費収支差額

この差額は、消費収入（帰属収入 基本金組入額）から消費支出を差し引いて計算します。平成 17 年度の消費収支差額は、（マイナス）3 億 2 千 6 百万円の支出超過で、翌年度繰越消費支出超過額は 13 億 6 千 7 百万となりました。

《帰属収支差額及び消費収支差額》



(3) 本学園の財政状況の概要(貸借対照表)

財政状況の概要を、平成18年3月31日の決算日における資産および負債、基本
金、消費収支差額の内容及び在り高等、本学の財政状態を明示した「貸借対照表」に
おいて報告いたします。

資産の部

有形固定資産は、139億9千8百万円となりました。創立百三十周年・再興五十周
年記念事業の一環として、文学部総合体育館完成等に伴う資産の増加分と減価償却額
及び建物等取壊の減少分を含めて平成16年度と比べ7億2千8百万円増額となりま
した。今後も、文学部教育研究棟の建築など大規模事業が計画されています。

その他の固定資産は、29億7千2百万円となりました。将来計画のために第2号
基本金・各種特定預金を予定どおり積み立てましたが、文学部総合体育館建築資金と
して第2号基本金を取り崩しましたので、平成16年度と比べ2億6千4百万円減額
となりました。

流動資産は、38億1千5百万円となりました。支払資金としての現金預金と各種
積立等により、平成16年度と比べ8千8百万円増額となりました。

資産の部合計は、有形固定資産とその他の固定資産、流動資産を加えた207億8
千5百万円となり、平成16年度と比べ5億5千2百万円の資産の増額となりました。

負債の部

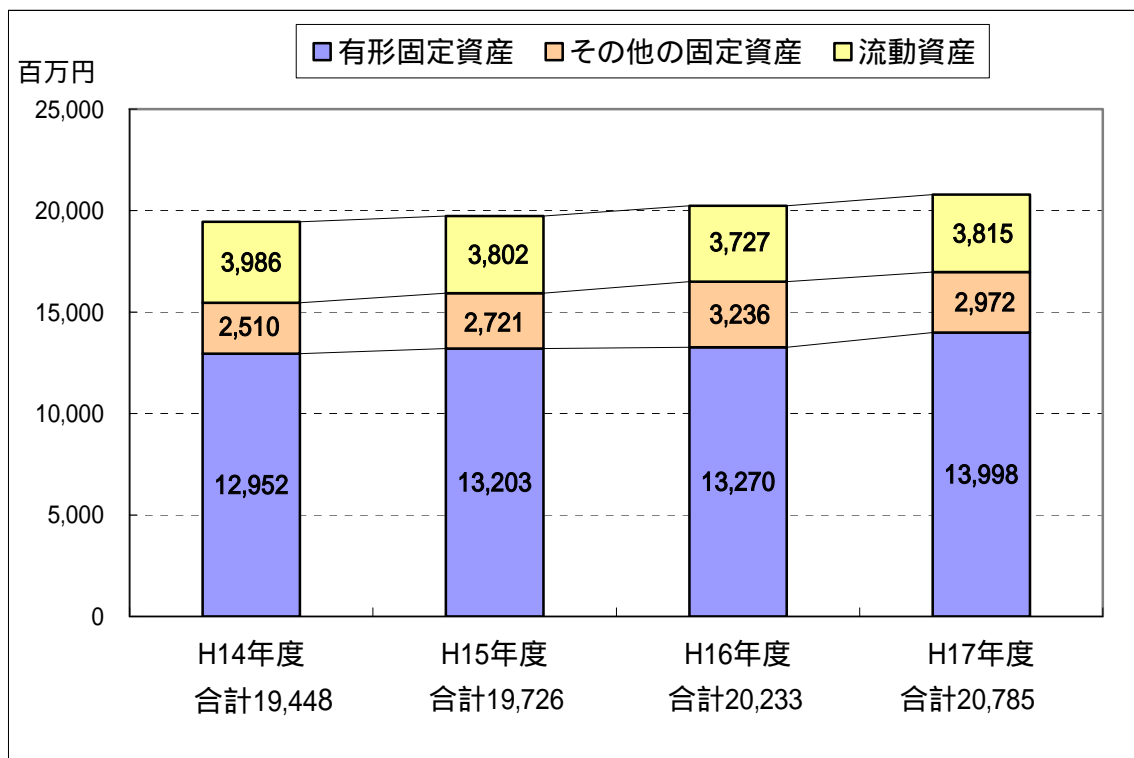
固定負債と**流動負債**を加えた負債総額は、25億5千3百万円となりました。自己
資金により順調に長期借入金及び短期借入金を返済しています。

基本金の部

基本金は、195億9千9百万円となり、当年度取得資産と将来計画のための第2号基
本金の合計8億7千1百万円を組み入れました。

これにより**自己資金(基本金合計195億9千9百万円+消費収支差額合計13億6
千7百万円)**は、182億3千2百万円となりました。

《資産の部》



《負債の部》

